

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2021年11月15日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

介護の日 介護制度や介護職員の処遇の改善を アピール行動
介護電話相談には50人以上が相談



11月11日は介護の日。
この日合わせて、道内各地で介護制度や介護職員の処遇の改善を求める取り組みや、介護問題の電話相談会が行われました。

悪天候の中、50人で介護スピーチ集会 介護に深刻な実態報告

11月7日(日)昼、「介護される人もする人もみんな笑顔に！北海道連絡会」が、JR札幌駅南口広場で、介護スピーチ集会を行いました。集会開会まで雨が降り日差しもなく気温が10度前後と寒い中、介護事業所、福祉施設のケアマネジャー、介護職員、福祉施設職員、労働組合から50名以上が、イメージカラーのオレンジ色のスカーフを身につけて参加しました。集会の様子はテレビや新聞でも報道されました。来賓として共産党から元衆議院議員の畠山和也さんと宮川潤道議会議員があいさつに立ちました。

スピーチでは、勤医協月寒居宅介護支援事業所の森枝朋久さんがコロナ禍での利用者の状況やケアプラン有料化の問題点を、勤医協福祉会特養もなみの里介護福祉士の佐藤龍平さんは「補足給付」の改悪で利用者負担が増加したことについて発言しました。勤医協の関根恵美子さんは、訪問介護の実態についてヘルパーの高年齢化の問題や担い手不足が深刻な状況にあることを訴えました。障害者施設を代表しての福祉保育労の松原清さんは、施設での新型コロナウイルス感染症のクラスター発生時の深刻な状況に触れ、PCR検査拡充の必要性を強調しました。

介護疲れなど、涙しながらの相談も 十勝勤医協でも相談会

11日には、介護・認知症なんでも無料電話相談を行い、51人から相談が寄せられ、介護現場で働くケアマネジャーや労働組合の相談員などが対応しました。北海道介護支援専門員協会の相談員も参加し、テレビでも報道されました。

相談者の特徴は、家族が34人で、女性が37人、年代も60歳以上が21人。相談内容では、介護疲れが10人とトップ。98歳の認知症を持つ夫を90代の妻が介護しているなど、老々介護の大変さや長年介護を続けている辛さ、一人暮らしの不安など、30分以上の相談もあり、涙しながら話をする相談者もいました。

中には、「施設の費用が高くで入れない」「今年8月から、食費は2万円値上げになった。生活費が大変、これから灯油代かかるのにどうしたらよいか。補足給付で苦しんでいる人いることを政府に伝えてほしい」という方。「コロナ禍の中、介護職員が感染に気をつけながら、頑張っています。賃金が安いと聞いています。もっと上げてほしいです。署名用紙があれば送ってほしい」という方もいました。

十勝勤医協も無料電話相談を行い、4人から介護施設入所の要件や利用料・負担割合、介護認定や認知症状への対応などの相談が寄せられ、介護主任などが対応しました。介護制度の抜本的な改善が求められます。

